

138

新たに考案せる細菌莢膜染色法に就て

山中 太木

(大阪高等醫學專門學校微生物學教室)

細菌莢膜を染出する多くの手技が示されてあるが、これはなかなか容易ではない。自分は脾脱直菌に就て研究中、偶々この染色手技に一考案を樹立し、容易にかつ美麗な標本を手にすることを得た。ここには端的にその手技の順序を記載して各位の御試用を希望する。

1. 材料塗抹、自然乾燥(急ぐ場合は孵籠に收めて乾燥)。
2. 1%硫酸銅水溶液 10-20 秒。
3. 液を傾注して水洗す。
4. 山中氏莢膜染色液 20-30 秒。

フクシナルコール飽和液	5.0
グリセリン	5.0
液状石炭酸	5.0
蒸溜水	90.0

 を用ひて製す。
5. 水洗、自然乾燥、鏡檢。

この染色法に於ける前處置としての銅液は、無固定菌の殺菌を瞬間的に可能ならしむる特性がある。従つて硫酸銅に代ふるに鹽化銅、硝酸銅、醋酸銅、その他の銅酸化物を以てしてよろしい。

なほ莢膜形成は従來の説の如く、動物體內に限つて行はるるものではなく、人工的にも炭酸瓦斯と蛋白質の存在下では容易に形成さるるものであることを知つた。これに就ては別に詳報することとする。

(受附：昭和17年4月30日)

【醫學と生物學・第1巻・第10號・頁479・昭和17年5月20日】